

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人一人が普通の生活を長く楽しく送れる様に理念をつくった。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時に全員で言葉にして全員で理念の実践に向けている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関と事務室に理念を掲げ、皆さんに理解してもらえよう努力している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	町内会に入会して運動会、お祭りなどに参加している。回覧板を回す時などに話をしたり、散歩のときにはあいさつをしている。	散歩時には、近所の方の庭でできた果物（いちじく、柿、柚）をいただいたりもする。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の班長をしており、町内の皆さんとコミュニケーションをしている。町内会長・理事の方に運営委員になってもらっており、地元交流に努めている。	近くの小学校の運動会、お祭りへ出掛けた。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員の研修時には、回覧で地域の皆さんにも参加を呼び掛け、一緒に実習をした。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	指摘されたことを念頭におき、改善に心がけ、会議で話し合った。それにより利用者さんたちの生活全体が上昇することを期待している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員の方たちからの第三者としての意見はとても貴重なものであり、サービスの向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営委員会では市町村の新しいサービス事業を聞いたりする。窓口へ行き相談にのってもらえる時もある。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	講習会になるべく参加する。資料は回覧板に提示したりする。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ポスターをいつも見えるところに提示してある。朝の申し送り時に話題にしたりお互いに読んだりしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居する前には契約書を一度家庭に持ち帰ってもらい、ご家族全員で検討してもらう。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新聞を利用したり全体会議などで反映している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月広報を発行してご家族や離れて住んでいるご家族に送付している。	家族会を開催するために、全員のご家族に集まっていたが、これからの運営に活かしていきたいのだが、広報で呼び掛けてもほとんど集まらないのが現状であり、家族会の開催がこれからの課題である。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの意見等は一ヶ月に一度の全体会議で議題のひとつとして話し合っている。また、運営委員会後に市役所の職員に相談をするときもある。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議で話し合っている。新入職員であっても中には参考になる意見もあり、職員全体で話し合っている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	10日前までに休み希望を提出してもらい、それに応えるようにしている。面接時には職員本人に希望勤務日数を確認している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動はない。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部から講師やメーカーさんを招いたり、研修会の資料を参考にし、勉強会を開いている。		認知症、胃漏、褥瘡、介護実習等
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いきいき体操のボランティアに出向き、他のグループホームと交流を持ったり、外での食事会などを開いたり参加したりしている。また同業者や病院関係者の見学も受け入れており、同時に見学へも行くこともある。		高校生の介護実習の現場としても利用してもらった。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員間での親睦会を1～2ヶ月に一回行っている。そこで自由に話し合ってもらっている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個人の生活、環境を大切にされた勤務表を作成している。勤務経験、状況、資格によって月給、時給を考慮している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人が困っていること、不安なこと等を傾聴できる環境を作るため、時間がかかってもお茶と一緒に飲んだりリラックスして話してもらえよう努力をしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族からの相談には切実な悩みも多く、時間をかけ傾聴に努めている。悩みによっては緊急を要することもあり、昼夜を問わず親身に対応している。	ご家族の自宅の近くまで出向き、相談にのったこともある。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に時間をかけ、しっかり見極めをし、他のサービスが必要な場合ははっきりとそちらを勧めている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始にあたっては、決まった方法がある訳ではなく、ご本人の状態により半日体験から始めたりとご家族と相談上決めていく。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	台所に立ってもらい、野菜の切り方、味付けなどをいろいろ教えてもらっている。時々、職員が悩みを聞いてもらったりもしている。庭の畑の野菜作りなどもたくさんを教えてもらっている。	職員と利用者さんたちはよく冗談を言って笑い合っている姿が見られ、孫のようだと喜んでくれるときが多々あり、私たち職員も嬉しい限りである。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時になどはお茶を飲みながら利用者さんの現状をお伝えしている。面会がなかなかいご家族には電話で報告している。		ご家族が作ったお米や野菜を息子さん自身が休みの度に持ってきてくれたりして、私たち職員と共にご本人を支えている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人とご家族がより良い関係を築ける様、双方に不安不満がある場合にはお互いの話を傾聴している。		面会には時間と場所を問わず、施設以外でのご家族との面会もある。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同窓会、カラオケ大会、いとこ会、孫の結婚式への出席等、今まで本人が大切にしていたものを断ち切らないよう支援している。		外出時の身だしなみ、化粧等して外出に備えた。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者さん同士の関係を深めるために皆で活動する機会を多くしている（毎日の掃除、散歩、レク等）		身体の自由がきく方は他の方の手足になってもらえるようお願いしたり、お互い得意なことを教えあったりしている。利用者さん同士での会話や笑い声は日中よく交わされ、施設内はいつも明るい雰囲気で包まれている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院先へのお見舞い、又はご家族に連絡をとり状況を聞く、相談にのるなどして関係を断ち切らないようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人からの聞き取り、または所持品から希望や意向の把握に努めている。困難な場合、生活歴や趣味などをご本人やご家族から聞き取り、職員会議で検討している。	亡くなったご主人の写真、ご本人が信仰する宗教をお祈りするために、朝食前にご飯を供えたり、手を合わせたりしている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人やご家族、付き添いの方に聞き取りを行い、書面に残している。入居後も日々の生活の中で常にご本人から生活歴や趣味を聞き出すことに努め、些細なことでも書面に書き足している。	昔の写真や本人が大事にしているものを見せてもらったり、ご本人との会話内容から想像させてもらったりもする。また、観光地のDVDと一緒に鑑賞し、思い出話をしたりもする。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	それまでの聞き取りや日々の観察により、ご本人の出来ること出来ないこと、したいことしたくないこと等を見極め、意向に沿った暮らしができるよう努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	それまでの集めた資料や家族の意見を参考に全体会議で課題とケアのあり方の方向性を決め介護計画を作成している。また、家族の面会時にケアプランに目を通してもらい、説明を行い、意見をいただく。その意見を参考に更に全体会議で見直しを行っていく。	全体会議にて毎月3～4人の介護計画の反省をし、計画の見直しをする。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご本人の状態は日々変化していくので、その状況に応じて随時見直しを行っている。	些細なことになるとたくさんの変化があり、その度ごとに朝の引き継ぎの時間を利用したりして短時間ではあるが、常に話し合って見直しを行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルがあり、毎日の様子を記入することで生活の変化に注意している。利用者さんの一日の流れなどが職員全体で把握できるよう記入者の思いも書くように指導している。		職員間との情報共有にもなり、介護計画の見直しも活かされている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人、ご家族の状況により、病院の送り迎えをしたり、買い物へ行ったりする。入院が必要になった場合、協力病院に相談する。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	学校関係や町内関係、民生委員、女性会、ガールスカウト、ボランティア等の方々が運営委員であり、支援していただいております、とても感謝しています。		民生委員は2ヶ月に1回来設。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人の状態や意向、ご家族の意向によっては他の相談員やケアマネジャーと話し合い、他のサービスが受けられるよう支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	シルバーリハビリ体操指導士の方々を毎週お招きし、いきいき体操の指導をしていただいている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		<p>協力医療機関があるので、適切な医療機関を紹介できたり、夜間や緊急時でも入院ができる。また、歯科と内科の往診もある。</p>
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		<p>医師との関係も考慮し、受診時はいつも同じ職員が付き添うようにしている。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		<p>ご自分の健康に不安のある利用者さんたちは看護師である職員に気軽に相談している姿がよく見られる。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		<p>ご家族が遠い場合には、入院中の洗濯や買い物などもするときがある。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>現在、身体の調子が悪い方は入院になるが、今後の変化に備えて検討や準備を行うことも必要かと思われる。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	職員によるご本人やご家族への事前の面会（必要だと思われる回数）、ケア関係者との情報交換、相談により、住み替えのダメージを防ぐことに努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	一人ひとりの今までの生活環境、状態に合わせた声かけや対応をしている。記録、カルテ等の個人情報事務室に保管しており、プライバシー確保を徹底している。	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	季節の変わり目などに個人個人に声をかけ、不足している物や欲しい物を本人に考えてもらえるような問いかけをする。	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	日々の生活の中で今何をしたいのかしたくないのかを尋ねたり、くみ取ったりして一人ひとりの生活のペースを大切にしている。	レクや散歩、入浴等は毎日あるが、その度ごとにご本人の希望を尋ねている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	ご本人が毎日身につける洋服や下着は、好みのものを所持できるよう職員と一緒に買いに出かける。ご本人が望む美容室へ行く。	髭を剃るためにシェーバーの購入。外出時、化粧品をした利用者さんに対して職員皆で褒めたりしている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		<p>庭に畑があるので季節の野菜が楽しめ、また利用者さんらも大事に育てた野菜が料理として出されることに大変喜んでいる。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		<p>毎日の散歩のコースをたまに少しそれ、近くのコンビニに行くことがある。</p>
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		<p>必要と思われる利用者さんに関しては、排泄管理表をつけ、時間をみてトイレ誘導している。それにより失禁等の失敗がなくなり、ご本人の自信につながってきている。</p>
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		<p>全員が毎日入浴できるような状態にしているし、また実際にほぼ全員が毎日入浴しているが、当日の入浴はご本人の希望による。入浴時間においては利用者さんたちの意見で決めた。</p>
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		<p>就寝時間は決まっていらないが、皆それぞれ自分で決めているらしく、時計を見てそれぞれがそれぞれの時間に入室していく。ただ、その日の体調によって早く入室される方もいるし、TVの番組によっていつもより遅くなる方もいる。</p>
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		<p>一人ひとりの力や感じ方は違うので、そのうちのひとつでもその方の支援になればいいと思い日々努めている。</p>


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望があれば、ご家族と金額を相談の上、ご本人が所持している。希望がなければお預かりし、買い物へ行くときなど必要なときに応じて随時お渡ししている。		孫にお小遣いをあげたいから、という利用者さんもあり、お金の使い方はそれぞれだが、その方に応じた支援をしている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日午前中に外へ行きたい方たちと共に散歩へ出掛ける。その他の時間であっても希望があれば職員と共に戸外へ出掛けている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者さんたちをお連れし、観梅やお花見、梨狩り、紅葉狩り等の外出支援をしている。ご家族との受診時には外食を勧めたり、機会があれば個人的な外出（同窓会や結婚式）を勧め、洋服を選んだり、化粧をしたりして外出支援している。		近くにバス停があるので、利用者さんたちと共にバスに乗り、水戸駅まで行き、買い物をしたり、食事をしたり、映画を観たりもしたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	玄関に公衆電話があり、ご本人がいつでも電話をかけることができる。親戚や友達から手紙がきたら返事を送れるように官製はがきをいつも用意している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	玄関やリビングにはたくさんの花を置き、一緒にお茶を飲んでもらったり、気軽に訪問できるように工夫している。ご家族以外にも会社の同僚、近所や女学校時代の友人らが来たりする。		個人の面会者としてではなく、全員のお客様としてお迎えする為、他の利用者さんと一緒にお茶を飲むときも多々ある。ご家族の中には他の利用者さんの名前まで覚えて声を掛けてくれる方もいる。また孫だけの訪問もあり、利用者さん達みんなでご飯を食べさせたりおんぶ紐でおんぶしたりして楽しみながら面倒をみている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事務所に身体拘束のポスターが提示してあり、皆が毎日確認することができる。拘束をせずに見守りの徹底をし、常に職員がそばにいることを心がけている。		居間の和室に布団を敷くこともある。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		<p>災害時の食料確保のためにおかゆ、白ごはん、ふりかけ、水を常時用意してある。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族面会時に毎日の生活状況やご本人の体調を含めた状態を説明する。ケアの中で職員が不安に感じたことなどはそのままにせず、ご家族に連絡し確認している。		対策案を話し合う際、施設外で面会することもある。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	起床時にバイタルのチェックをし、変化ある場合には定期的にチェックをする。異常がある場合には看護師に指示を仰ぐ。		変化ある場合には、午前のお茶時、昼食時、午後のお茶後（入浴前）、夕食時、就寝前と定期的にチェックする。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には職員が一人ひとりに確認しながら手渡しする大切さを理解している。利用者さんの薬に変更があったときには、朝の引き継ぎや伝言帳を利用し全職員に伝達している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事には牛乳、繊維質の材料を使うよう心がけている。毎朝のバイタルチェック時に排便のチェックも行う。ご本人に有無を尋ね、また便器の汚れ等の確認をする。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔ケアの声かけ、介助等行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食後の摂取量の確認、一日の水分量をふまえたお茶の回数の支援をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザの予防接種は、利用者さんと職員に受けてもらっている。感染症の勉強会を開き、職員で勉強した。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食事を作る職員は割烹着と三角巾の着用の義務。ふきん、まな板などは日曜の朝に漂白している。近隣の店に利用者さんらと共に買い物へ出掛け、新鮮な食材を求めてくる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設のまわりには花を植え、玄関にはたくさんの花を置いている。玄関前には滑り台と犬がおり、近所の子供が遊びに来たりもしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングからは庭の畑が見え、中庭には一本のみみじがある。毎春ムクドリがそのみみじの木に卵を産みに来て、孵っていく。毎年職員共にご利用者さんも楽しみにしている。建物全体はバリアフリーでできおり、個室にはそれぞれのトイレがある。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	たいていほとんどのご利用者さんは日中をリビングで過ごしている。気のあった仲間同士でソファで話し込んだり、テーブルをはさんで縫い物や塗り絵をしたりしている。それもそれぞれの個室があることでいつでも一人になれる時間が取れることを知っているからかもしれない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には出来るだけ自分で使用していた布団やタンス、茶碗や箸などを持ち込んでもらうように働きかけている。また、ご主人の写真や信仰している聖像を飾っている方もいる。		今までには、ご家族が泊まるための寝具があったご利用者さんもいた。実際に定期的に泊まりに来ていた。これからのためにも、寝具は準備してある。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間換気している。各個室にエアコンがあり、ご利用者さんの状態によって温度調節を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者さんの状態、好みに合わせて和室か洋室、更にベットか布団かをご本人とご家族も含め相談した上で決めている。		バリアフリーはもちろんだが、エレベーターがあり、廊下や階段、浴室には手すりがある。中庭があり雨の日にはその周りを室内歩行することができる。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの部屋の前には名札が付けてある。混乱する方には更に造花などを飾り目印もつける。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭には畑があり、野菜や花をつくったりしている。近所のボランティアさんと共に畑の手入れをしてくれる利用者さんもある。また、温室もあり冬には胡蝶蘭、カトレア等を育てるために利用者さんと水をあげたりもしている。		春には芝生の上でお花見をしながら、昼食を食べたりもする。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

毎日の生活を楽しく元気に過ごせるようにと、ご利用さんが参加しやすいレクリエーションを毎日催しています。月曜日は工作、火曜日はいきいき体操と詩吟教室、水曜日はおやつ作り、木曜日はレクリエーション(皆で楽しめるゲーム)、金曜日はカラオケまたはDVD鑑賞、土曜日は手芸または工作の日と決めて活動しています。レクリエーションを毎日催すことで利用者さん同士の会話が増え、仲間意識がとても強くなっていると感じます。悩みを相談していたり、相手ができないことをしてあげていたり、お互いに冗談を言い合ったり、笑いあったりしている姿が多く見られ、利用者さん同士はとても仲が良いです。庭には畑があり、地域の方が野菜や草花の苗や種を持ってきて、職員や利用者さんと共に畑を耕し、苗を植えたり、種を蒔いたりして収穫を楽しんでいます。また地域の方が収穫した野菜や庭で咲いた花を持ってきてくれたり、子供が大きくなってもう飾らなくなったおひな様をホームのたくさんの利用者さんらに見てもらった方がおひな様もうれしいからと飾ってくれた方もいらっしゃいます。それに対し、私たち職員が感謝の気持ちを持ったのはもちろんですが、利用者さんたちもとても喜んでいました。ホームからは小学校も見える距離にあり、毎日たくさんの子供達が登下校している姿が見られ、利用者さんたちもほほえましく見送っています。また、「子どもを守る安全の家」に登録しており、子供の安全を見守っています。運営推進会議の委員の中には地域の小・中・高等学校の校長先生もいらっしゃり、運動会やバザー、演奏会など行事の度に招待していただいております。利用者さんたち共に楽しんで出掛けたりもしています。地域の皆様のおかげで安全に楽しく生活を送らせていただいております。